

白浜の定地水温

7～9月の白浜の水温は、7・8月はやや高め～高め、9月はやや高めで推移しました（表1）。黒潮は、7月中旬はA型、7月下旬～8月はC型、9月上旬はD型、9月中～下旬はA型で推移しました。

表1 白浜定地水温の変化（平成29年7～9月）

月 旬	平均(°C)	平年差	前年差	最高	最低
7 月上旬	21.8	0.6	2.1	22.8	20.6
7 月中旬	23.7	1.9	0.6	25.8	22.3
7 月下旬	22.8	-0.2	-1.2	25.8	20.3
7 月	22.8	0.8	0.4	25.8	20.3
8 月上旬	25.5	1.7	-0.3	26.5	24.4
8 月中旬	25.9	1.6	-0.5	26.5	25.5
8 月下旬	25.8	1.2	0.1	26.5	23.9
8 月	25.7	1.5	-0.2	26.5	23.9
9 月上旬	25.3	0.5	-1.1	26.3	24.5
9 月中旬	25.1	0.6	-0.3	26.1	24.0
9 月下旬	24.5	0.7	-0.4	25.2	23.8
9 月	24.9	0.5	-0.6	26.3	23.8

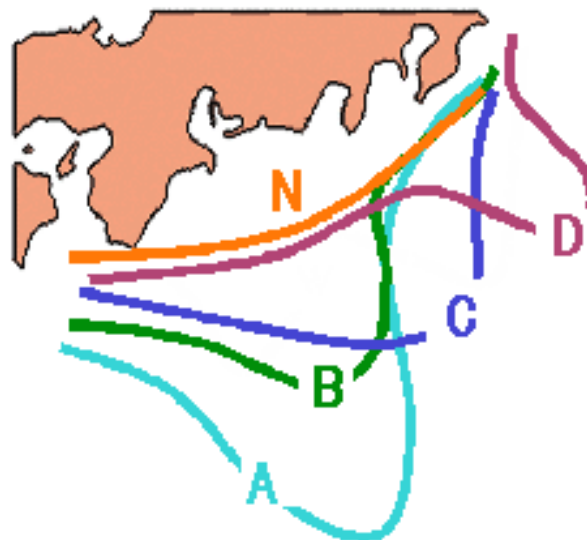


図1 黒潮流型

*水温 低め：～-1.6℃、やや低め：-1.5～-0.6℃、平年並み：±0.5℃、やや高め：0.6～1.5℃、高め：1.6℃～

伊豆半島沿岸への黒潮大蛇行の影響

平成 29 年 8 月 30 日、気象庁より「黒潮大蛇行の兆候が見られる」との発表があり、翌月の 9 月 29 日には、「黒潮が 12 年ぶりに大蛇行」と、大蛇行発生の発表がありました（図 2）。黒潮とは日本列島の南岸に沿って北上し、房総半島沖を東に流れる暖流のことで、その流路は海水温や回遊魚の来遊パターン等に様々な影響を及ぼします。特に大蛇行流路になると、伊豆半島沿岸に悪影響を及ぼす可能性があります。

大蛇行の判断基準は「潮岬で黒潮が安定して離岸していること」「東海沖（東経 136～140 度）の流軸（流れの最も強い所）の最南下点が北緯 32 度より南に位置していること」の 2 点とされており、静岡県近海においては、遠州灘沖で大きく離岸した後、伊豆半島に向かって北上する流路（図 1 A 型）が大蛇行時の典型的な流路となります。

したがって、大蛇行が発生・継続すると、伊豆半島沿岸海域が黒潮由来の暖かく貧栄養の海水に晒され、海藻にとって非常に生育しにくい環境となるため、海藻は枯死し「磯焼け」が発生します。平成 16 年 7 月～平成 17 年 8 月に発生した大蛇行時も磯焼けが発生し、アワビなど海藻を餌とする貝類が痩せるといった漁業被害が生じました。

しかし、今回の大蛇行は、流路の北上部分が伊豆諸島に沿って伊豆半島に直進するのではなく、一時的に伊豆諸島の東側を北上することもあることから、これまでの大蛇行流路とは異なるパターンではないかと中央水産研究所や各県の海況担当者は考えています。したがって、これまでの大蛇行発生時のように、伊豆半島沿岸に磯焼けを発生させるような海洋環境にならない可能性も考えられます。当场では、黒潮大蛇行による磯焼けの発生を想定して、潜水調査による海藻の状態把握を随時実施するとともに、磯焼けの影響で痩せたアワビを海藻の残っている場所に移植するといった対策を進めたいと考えています。

（鈴木勇己）

